

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏名 木 村 祐 哉

審査担当者	主査	教授	有 川 二 郎
	副査	教授	寺 沢 浩 一
	副査	教授	玉 城 英 彦
	副査	教授	藤 田 博 美
	副査	教授	水 上 尚 典

学 位 論 文 題 名

ペットロスに伴う悲嘆反応とその関連要因

本研究は、ペットを失った飼い主に生じる悲嘆反応の状況把握から、今後の対応を考える際の議論の道筋を提示することを目的として実施された。飼い主の4割以上が死別4ヵ月後にも神経症症状を呈することを明らかにし、統計学的探索から重症度予測や予防につながる可能性も示した。さらに「ペットロス症候群」という表現に対する印象を質的に研究し、用語としての妥当性と影響について確認する必要を示した。

質疑応答では、寺沢教授から神経症の有病率が死別2ヵ月後でも死別直後と同程度に高い理由について質問があった。次いで藤田教授から、調査地域の選定、宗教の種類ではなくその有無で集計をした理由の確認、ウェブログを通じたペット喪失者の感情吐露に関する質問があった。玉城教授からは対象者の偏りについて確認するとともに、今後の展開について質問があった。また、水上教授からは全受診患者のうちペットとの死別が関わっている割合などについて調べた報告がないのかという質問とともに、ペット喪失による悲嘆反応が親族との死別と比べて軽いと言えるかという議論があった。最後に有川教授から、研究実施に至る4年間の経過について質問があった。

いずれの質問・提案に対しても、申請者は、自身の学位論文・学術論文、学会での発表・討論、論文投稿時の査読内容、先行研究に関する文献を引用して適切に回答した。

この論文は、調査対象者への心理的負荷が強く、これまで国内における前例のなかった困難な研究を成し遂げた成果によるものである。ペットの喪失に伴う悲嘆反応に関する基本的な情報を初めて提示した点は高く評価され、これは今後の対応を考える足がかりとなることが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。